



かおり

vol.
64
May
2021



特別養護老人ホーム アイユウの苑

理 念

私たちは地域の皆様の
幸福(しあわせ)に貢献できる
社会福祉法人を目指します。

品質方針

顧客満足から顧客感動へ
「やさしさ」「真心」「思いやり」で満ち
溢れた**心のかおり**のするサービスを
目指します。

今回の内容

法人理念を実現するための目指すべき方向VISION2025
それを具体化するための

行動指針「アクションプラン15」..... 02・03

ミニ福祉情報 科学的裏付けに基づく
介護の時代がきます 04

各拠点からのお知らせ
さこ拠点(彦島迫町) 04

たのくび拠点(彦島田の首町)・しおはま拠点(彦島塩浜町) 05

ゆめタウン拠点(長府ゆめタウン)・しおかぜ拠点(彦島迫町) 06

松美会の人財
私たちが働いています! 07

自宅でできる介護食のススメ⑥ 08

品質方針

顧客満足から顧客感動へ

“やさしさ” “真心” “思いやり” で満ち溢れた “心のかおりのするサービス” を目指します。

そのため、理事長以下全職員がISO 9001に基づく品質マネジメントシステムの構築・維持およびその有効性の継続的改善に積極的に取り組めます。

安全衛生方針

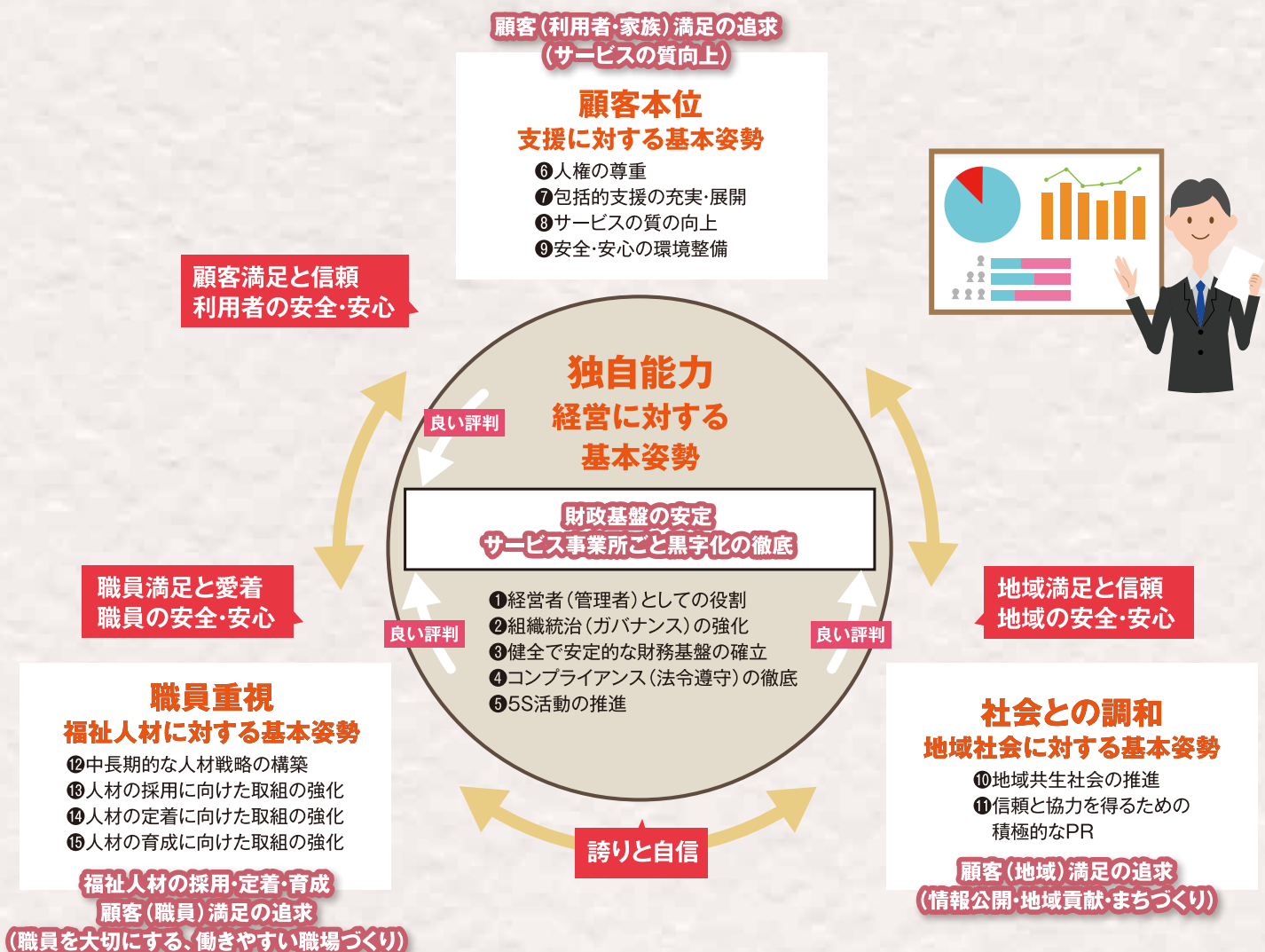
職員の安全・安心が顧客満足・顧客感動をつくる

下関市の福祉を支えるために、法人理念を実現するために、その担い手である職員が安全・安心で働き続けることができる職場環境をつくりまします。

そのため、理事長以下全職員がISO 45001に基づく労働安全衛生マネジメントシステムの構築・維持およびその有効性の継続的改善に積極的に取り組めます。

行動指針「アクションプラン15」

顧客本位（支援に対する基本姿勢）職員重視（福祉人材に対する基本姿勢）社会との調和（地域社会に対する基本姿勢）独自能力（経営に対する基本姿勢）の4つの視点で15の行動指針を示し、目的・考え方と具体的実践を明確化し、単年度事業計画につなげています。顧客からの良い評判、地域社会からの良い評判、職員からの良い評判が結果として財政基盤の安定につながるのだと信じています。



法人理念を実現するための目指すべき方向VISION2025 それを具体化するための 行動指針「アクションプラン15」



社会福祉法人 松美会 VISION2025

社会福祉法人 松美会は、社会環境の変化に適応し、時代が求める高齢者介護サービスの提供体制を整えながら成長を続け、2020年6月、アイユウの苑は25周年を迎えました。

新型コロナウイルス感染拡大によるwithコロナからafterコロナへの対応、社会の機能を維持(暮らしを支える)するためにエッセンシャル・ワーカーとしての役割を果たしてまいります。

2021年度からの5年間、2025年、30周年を見据え、法人理念を実現するために目指すべき方向を『VISIONビジョン2025』とし、それを具体化するための行動指針として『アクションプラン15』を策定しました。また、国連が掲げる「誰一人取り残さない」というSDGs(持続可能な開発目標)を意識して取り組みを進めてまいります。

今後は、『VISIONビジョン2025』『アクションプラン15』に基づき、下関市の福祉(介護・保育)をリードするプロフェッショナル集団としての自覚と誇りを持ち、自信に満ち溢れた立ち姿で、品格のある法人経営を推進しつつ、下関市らしい地域包括ケアを深化させ、地域共生社会の実現を目指してまいります。

理 念

私たちは 地域の皆さまの幸福(しあわせ)に 貢献できる社会福祉法人を目指します

1. 福祉人材の 採用・定着・育成

法人の魅力をあらゆる手段を駆使して発信し、質の高い人材の確保を進めるとともに、「職員を大切にしやすい職場づくり」を推進することで、定着させ、顧客満足を実現できる人材を育成します。

2. 顧客(利用者・ 家族・地域・職員) 満足の追求

独自能力をもって、顧客(利用者・家族・地域)満足を実現するために、自らサービスの質を点検し、評価し、顧客満足度を把握し、改善し続けることで、顧客が価値あるものと認めるサービスを提供するとともに、地域社会からの信頼の獲得を目指します。

3. 利用者・職員の 安全・安心の確保

利用者本位を実現するための礎として、安全・安心な職場環境をつくります。高い安全意識・安全文化を醸成するとともに、利用者と職員の安全・安心のための知識・技術の向上に取り組む続けます。

4. 財政基盤の安定

①福祉人材の採用・定着・育成 ②顧客満足の追求 ③安全・安心の確保 の結果が財政基盤の安定につながります。一方で、財政基盤の安定なしに、①福祉人材の採用・定着・育成 ②顧客満足の追求 ③安全・安心の確保 の実現はできません。そのために、業務・事業の生産性の向上のため、効率化・重点化を推進し、サービス事業所ごと(拠点ごと)の黒字化を徹底します。さらには、設備投資を要しない既存の施設・設備に着目し、それらを活用した新たな事業展開を模索します。

各拠点からのお知らせ

さこ

拠点
(彦島迫町)



コミュニケーションの重要性 ～風通しの良い職場を目指して～

当センターには22名の職員が在籍をしています。その中には積極的に発言をする職員もいれば、それを苦手とする職員もいます。また、職種の違いや経験年数の違いにより発言することを遠慮することもあります。そこで職員の性格や職種、経験年数に関わらず、多くの職員が発言しやすい環境、情報共有をしやすい環境を作ろうと考えました。

朝礼や終礼の見直しを行い、朝礼では「ご利用者様の連絡事項」として、ご利用者様の注意点をまとめたシートを毎日更新し、朝礼で共有しています。業務中に追加事項も多いため、インカムも同時並行的に活用しています。終礼では、以前は口頭で報告していた介護記録の報告や連絡事項について回覧することで、終礼時間の短縮を図りました。時間短縮した分、その日のご利用者様とのかかわり方や介助方法、職員間の連携での成功体験や失敗体験、改めて確認したいことや不安に思うことなどを話し合う時間にしています。少人数で行うため発言しなければならない環境が自然と作られ、個々の性格や職種、経験年数に関係なく発言できることが少しずつではありますが浸透してきています。これからも、職員間のコミュニケーションを大切に、多職種で活発な意見交換が出来る環境を整え、より良いサービス提供をさせて頂けたらと思います。

アイユウの苑
デイサービスセンター
生活相談員 川口 眞由美



福祉情報

科学的裏付けに基づく 介護の時代がきます

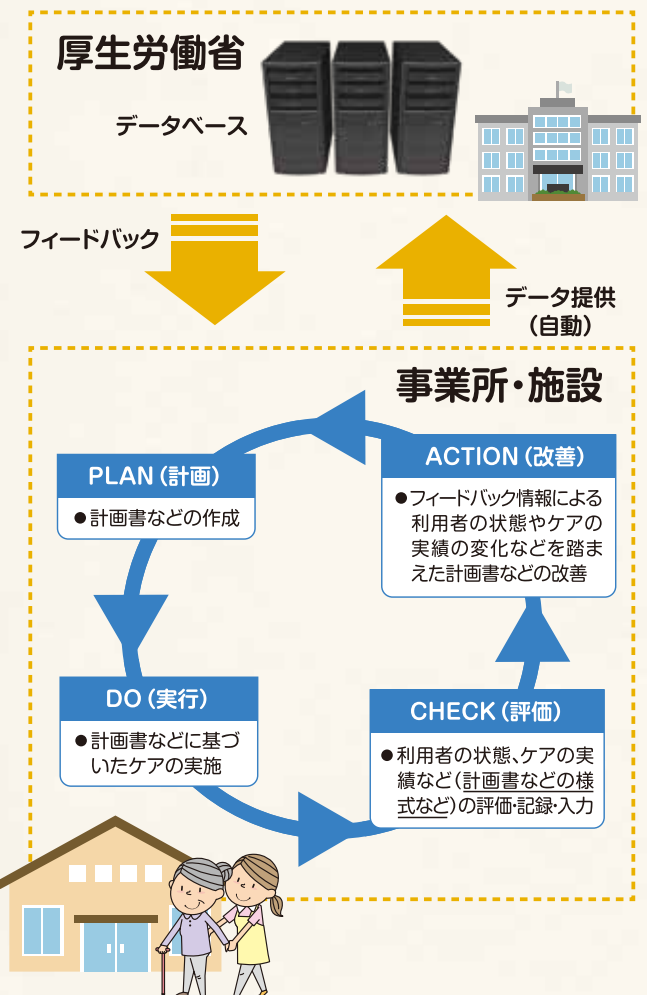
“LIFE(ライフ/科学的介護情報システム)”とは

厚生労働省では、令和3年4月1日より、科学的介護情報システム LIFE (Long-term care Information system For Evidence の略) の運用を開始しました。

このLIFEを通じて、私たちが行うケアの内容やご利用者様の状態などに関する(個人が特定されない)データを厚生労働省が収集し、蓄積された他の多くのデータを参考にしながら分析されたデータが私たちの施設に戻ってきます。その戻ってきた情報を今後、サービス計画の見直しなどに活用することで普段のケアが行われるようになります。厚生労働省が集めるデータは、ご利用者様のADL値、栄養状態、口腔機能、認知症、病名などの幅広いデータが収集される予定です。

医療の分野では、データに基づく医療を提供することで「治療効果」という目に見える指標がありますが、介護の分野では個々のご利用者様の様々なニーズや価値判断が存在するため、いくら他の人にとって効果が出たデータであっても必ず良い効果が出るわけではなく「ケア効果」という目に見える指標としてははっきりはしません。

LIFEによって私たちに提供されたデータを活用し、その方にあったケアを考え提供するのは、やっぱり人であり、私たちです。このシステムの効果を最大限に発揮できるよう、私たち自身がご利用者様の普段の様子をしっかりと把握し、LIFEによって科学的に分析された情報をもとにした根拠(エビデンス)に基づくケアが提供できるよう努めていきたいと思っています。



徹底して原因を 自分のこととして考え行動する

令和2年度にはグループホーム職員全員で、約8カ月の時間をかけ職場における職員の規範となる『行動目標』の見直しを行ないました。冒頭の文言が新たな行動目標です。約3年ぶりの見直しになります。

日々全職員でご利用者様へのより良いサービス提供へ邁進していますが、チームでやる以上は、同僚とのちょっとしたすれ違いから歪みが生まれることは避けられません。そんな時にこそ行動目標に立ち返り、自分の考え方や行動を確認し、必要なら見直し修正していきます。

トラブルが起きたとき、ストレスを感じたときにこそ、他人や状況、環境のせいにしては改善は望めません。ひょっとしたら運よく改善することもあるかもしれませんが、いつのことになるかはわかりません。自分の行動を変えることが改善への一番の近道です。

各拠点からのお知らせ

たのくび

拠点
(彦島田の首町)



簡単に見えて意外と難しいこのことに全職員でチャレンジし、より良いサービス提供に繋がります。職員の成長は必ずより良いサービスに繋がるはずで。

「過去の他人は変えられない。

でも未来と自分は変えられる。(エリック・バーン)」

アイユウの苑グループホーム
管理者 江藤文彦



各拠点からのお知らせ

しおはま

拠点
(彦島塩浜町)

抱え上げない 介護が浸透するまで

アイユウの苑しおはまでは『抱え上げない介護』を目指し、下関市ノーリフティングケアモデル事業所として1年半活動してきました。ノーリフティングケア(以下NLCと省略)を導入する前は立上りや乗り移りなど全ての介助を人力で行っており、職員から腰痛を強く感じる声も複数あがっていました。そのようなこともあり、ご利用者様にも職員にも優しい『抱え上げない介護』を目指すべくNLCを導入いたしました。NLC導入後には立ち上がりを支援するリフト、車いすに乗り移る移乗ボード、寝ている体の位置を移動させるシート、座り直しや体の圧を抜くための介助グローブ等を導入しています。福祉用具や福祉機器の使い方は実技訓練を行い、NLC技術を習得いたしました。R2年6月に職員に対して行ったアンケート調査では不安を感じるNLC技術も多く、NLCが定着していると感じていた職員は70%でしたが、職員が不安を感じるNLC技術を勉強会や個別指導など詳細な内容も含めて再確認し、重点的に再教育することでR3年2月の職員アンケート調査結果ではNLCがケア

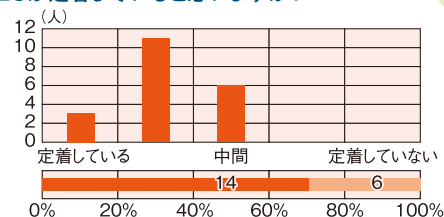
技術として定着していると感じた職員の割合は100%となりました。これからも定期的にアンケート調査を行いNLCが「あたりまえのケア」となるよう努めて参りたいと思います。

地域密着型介護老人福祉施設
アイユウの苑しおはま
介護主任 和田祐介

【R2年6月】あなたのユニットでは、NLCが定着していると思いますか？

	定着している			定着していない		
	5	4	3	2	1	
うみ	2	2	3	0	0	
やま	1	4	2	0	0	
たいよう	0	5	1	0	0	
合計	3	11	6	0	0	

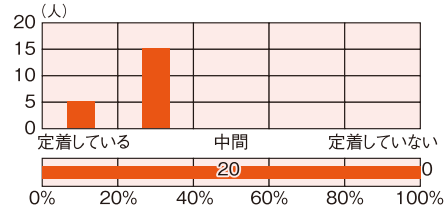
定着率 70%



【R3年2月】あなたのユニットでは、NLCが定着していると思いますか？

	定着している			定着していない		
	5	4	3	2	1	
うみ	1	4	0	0	0	
やま	3	5	0	0	0	
たいよう	1	6	0	0	0	
合計	5	15	0	0	0	

定着率 100%



ゆめ タウン

拠点
(長府ゆめタウン)

利用者体験を通して

ゆめタウンでは、ご利用者様の日中の過ごし方について職員間で意見交換を行い臥床時間の検討やレクリエーション・体操などの実施に取り組んでいます。また接遇面について、特に注意していく項目を取り決め、不適切なケアや無意識に出ている声掛けに着目し、職員同士で気づきあえる環境を目指しています。その中で少しでもご利用者様のお気持ちを理解するために「利用者体験」を実施しています。体験では、あらかじめ設定(身体面や生活歴など)した高齢者に職員がなりきって、ご利用者様と同じ目線になり半日リビングで過ごす疑似体験としています。今年度は、2月、3月で8名の職員が行いました。体験後に職員からは“時間が長く感じた”、“トロミ茶を介助してもらいティッシュで拭き取ってもらっても不快感が残った”、“言いたいことが言いにくかった”、“長時間車椅子に座っているのが辛かった”、“職員の話声が小声でも聞こえてきた”など様々な意見が出ました。



この体験を通してご利用者様が感じていることを知り相手に対する思いやりの気持ちの大切さが学べたと感じています。今後も定期的に利用者体験を実施してニーズに合ったより良いサービスの提供ができるよう努めていきたいと思っています。

地域密着型介護老人福祉施設
アイユウの苑ゆめタウン
介護主任 河野 修一



コロナ禍のお別れ会と 新たなはじまり

しおかぜの里こども園では、季節によって楽しい行事が行われていますが最近では、新型コロナウイルス感染症の影響によって残念ながら、今まで行っていた行事を縮小したり、変更したりして行いました。

お別れ会では、密を避けるために年長組が0～4歳児それぞれのクラスに、手作りのプレゼントを渡してまわり、在園児からも感謝の気持ちを込めてお返しのプレゼントを送りました。また、各クラスの保育教諭が出し物を行い楽しい時間を過ごすことができました。

卒園式では、感染対策として保護者1名の参加をお願いし、あらかじめ体温を測り、健康状態を確認したうえでの参加となりました。参加出来なかった保護者のために、インターネット上で卒園式の様子が視聴できるよう対応し、保護者の方にも好評なお言葉を頂き嬉しく思いました。卒園式当日は、年長児全員出席することができ、卒園の歌やお別



各拠点からのお知らせ

しおかぜ

拠点
(彦島迫町)

れの言葉を発表して、子ども達も保護者の方々も感動して涙する場面もありました。卒園式が終わった後は「まだこども園であそびたいな。」「先生達とさよならするのがさみしい。」など、心が温くなる嬉しい言葉が飛び交っていました。

ソーシャルディスタンスを保ちながら、春の行事を終えることができ、良かったと思います。4月からはまた新たなスタートをきります。新型コロナウイルスに気をつけながら子ども達と共に成長し、楽しく過ごして行きたいと思っています。

しおかぜの里こども園
保育教諭 澄田 紗也菈





小規模多機能型居宅介護
介護職員 河野 末希子
平成26年度入職 介護福祉士

この仕事に就き10年が経ちました。途中、介護の仕事から離れた時期はありましたが、介護の仕事がまたしたいと思いついてきました。介護の仕事をするなかで反省したり、大変だと思ったりすることもありますが、ご利用者様の笑顔や、喜ばれている姿、「ありがとう」「がんばってね」の言葉が嬉しく、励まされ、ここまで続けられています。ご利用者様は皆様人生の先輩で、日々教わることがたくさんあり、いろんなことを教えてください。日々学ばせていただきながら、介護福祉士として皆様のお手伝いをさせていただいています。

また、自立支援もこの仕事で大事なことのひとつです。ご利用者様が以前できなかったことができるようになったり、現在の生活を続けられるよう支援し、皆様が少しでも自分らしく、安心して毎日を過ごせるようになったりすることは、私たちにとてもとても嬉しいことです。

これからも、ご利用者様やご家族様から安心していただけるような介護を行い、皆様が楽しく毎日を過ごせるよう、



いつも相手の心に寄り添えるような介護福祉士でいられるよう心掛けていきたいと思っています。

松 | 美 | 会 | の | 人 | 財

私たちが
働いています！

◆ 今回のテーマは…

この仕事をしていて
うれしかったこと。



ゆめタウンショートステイ
介護職員 酒田 真智子
令和元年度入職

この仕事は私自身以前からやってみたくて思っていた仕事だったので、日々楽しくご利用者様達と笑顔で過ごさせてもらっています。ご利用者様の笑顔はとても温かく、私はいつもその笑顔に励まされています。そして、これから頑張ろうという気持ちになります。実際、知識も経験もまだ浅い私にとっては分からないことや大変だと思うことも沢山ありますが、私の周りにはそんな時に頼れる先輩方がいらっしゃるの、安心して伸び伸びとこの仕事を続けることができています。

ご利用者様の中には、体力が低下し問いかけにもなかなか反応されない方や話せない方もいらっしゃいますが、毎日の挨拶や笑顔で声かけをすることで目を合わせてくれたり時には返事を繰り返してくれたり、頷いてくれたりすると、それだけで嬉しい気持ちになります。そして、時折ですがゆっくりと微笑んでくださることもあり、その笑顔が拝見できた時には、この仕事をしていて本当に良かったとつくづく感じたりもします。

まだまだ未熟な私ですが、今後はもっと経験を積んで、ご利用者様達に毎日楽しく快適に過ごしていただけるように、そして個人に寄り添った対応ができるように努力していきたいと思っています。



グループホーム
介護職員 瀧本 直人
平成29年度入職

介護の仕事は以前にも経験がありましたが、人とのコミュニケーションが苦手で入職当初は不安や失敗で何度も挫けそうになりました。しかし一緒に働く先輩方やご利用者様の優しさにも支えられ、不安や失敗と向き合いながら仕事を続けていくうちに、一人ひとりの様々な考えや想いを尊重しくみ取れるようになれました。職員間でのコミュニケーションをとることの大切さを知り、自分自身の苦手なことに向き合い、ある時「少しずつでも克服できている」と実感したときに達成感を感じました。今でもその場での状況やご利用者様の状態に応じて、どのようにしたらよいのかわからなくなることはあります。その中でも『失敗は成功の素』『失敗を糧に次に活かす』ということを感じ、挑戦を続けています。

ご利用者様により良いケアを提供することはもちろん、そのために自分自身が成長することが大切で、仕事を通して自分を成長させることができています。「できなかったことができるようになる」「もっと上手に

できるようになる」といったことを感じるとき、うれしくなります。



デイサービスセンター
介護職員 木村 敦子
平成20年度入職 介護福祉士

私がこの仕事をしていてうれしく感じることは、相手の方の気持ちに寄り添って考えてとった言動や対応が相手に伝わって笑顔がみられたり、「ありがとう」の言葉をいただいたときです。自分の想いが伝わって「また頑張ろう!」という気持ちになります。

ご利用者様が在宅で生活される中で、デイサービスで少しでも楽しみや生きがいを見つけていただけるように他のご利用者様との交流や機能訓練で身体機能を維持していただけるように支援させていただいています。

以前の職場からアイユウの苑デイサービスセンターに異動になり1年が経ちました。ケアワーカーと生活相談員の仕事をするなかで、覚えることや経験して勉強することが多くあります。日々、上手いいかないことや失敗することもあります。上司や先輩方からアドバイスを貰い仕事ができていることに感謝しています。初心を忘れずご利用者様に寄り添って、丁寧な心配りができるように日々成長できるように努力していきます。



自宅でできる 介護食のススメ (その6)

栄養管理・食事サービス部
管理栄養士 松宮志真



春は旬の野菜や芋類が豊富な季節。噛んだり飲み込む力が難しくなられた方へ、旬の素材を丸ごと、栄養素もたっぷり摂取できる身体にやさしい「スープ」をご紹介します。

食物繊維もたっぷり。素材の持つ自然な「トロミ」と「甘味」で飲み込みもスムーズに！

おすすめ食材として

- ・人参
- ・新玉葱
- ・キャベツ
- ・ブロッコリー
- ・菜の花
- ・小松菜
- ・長ネギ
- ・かぼちゃ
- ・グリーンピース
- ・そら豆
- ・新じゃがいも
- ・さつまいもなど

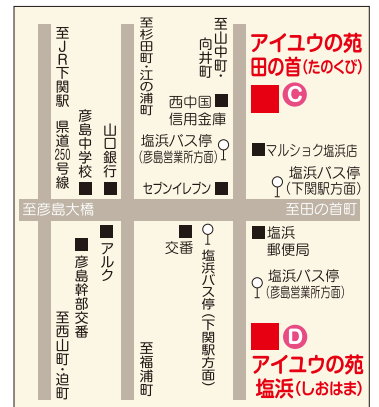


～準備するもの～

・鍋/お玉/ミキサー/好みの調味料

～調理方法～

- ①好みの食材一つに新玉葱を加え適当な大きさにざく切り。ひたひたの水で軟らかくなるまでゆっくり煮込みます。
- ②味付けはお好みで、例えばコンソメ、または、だしの素に薄口醤油、または味噌など。素材の旨味がしっかり出るので薄めの味付けがポイントです。
- ③調理後荒熱がとれてから具と煮汁適量をミキサーにかけます。
- ④この時ピューレ状であれば、残りの煮汁でスープ状にのばし、温めれば完成です。
※牛乳や豆乳で伸ばすと、タンパク質も一緒に摂れておすすめ！



社会福祉法人

しょう
松

び
美

かい
会

URL: <http://www.shoubikai.or.jp>
E-mail: fukushi@shoubikai.or.jp

◎アイユウの苑 迫(さこ)

〒750-0092 下関市彦島迫町三丁目17番2号

- 特別養護老人ホーム アイユウの苑(ショートステイ)
- アイユウの苑 デイサービスセンター
- アイユウの苑 サテライトデイサービスセンター六連島
- アイユウの苑 ホームヘルプサービス
- アイユウの苑 訪問入浴サービス
- アイユウの苑 訪問看護サービス
- アイユウの苑 ケアマネジメントセンター

Tel 083-266-8287
Tel 083-266-6364
Tel 083-266-6364
Tel 083-261-1372
Tel 083-266-6364
Tel 083-261-4337
Tel 083-266-6501

◎アイユウの苑 田の首(たのくび)

〒750-0085 下関市彦島田の首町一丁目1番32号

- アイユウの苑 グループホーム
- アイユウの苑 デイサービスセンターしおはま

Tel 083-266-5361
Tel 083-266-5362

◎アイユウの苑 塩浜(しおはま)

〒750-0086 下関市彦島塩浜町三丁目14番47号

- 地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑しおはま
- 小規模多機能型居宅介護 アイユウの苑しおはま
- 住宅型有料老人ホーム アイユウの苑しおはま

Tel 083-267-8800
Tel 083-267-2525
Tel 083-267-2525

◎アイユウの苑 ゆめタウン

〒752-0926 下関市長府ゆめタウン2番24号

- 地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑ゆめタウン
- アイユウの苑ゆめタウン ショートステイ

Tel 083-249-2200
Tel 083-249-2200

◎しおかぜの里

〒750-0092 下関市彦島迫町六丁目7番22号

- しおかぜの里こども園

Tel 083-267-1917



社会福祉法人 松美会 アイユウの苑は「社会福祉法人」「特別養護老人ホーム」「在宅介護サービスの複合供給体」として、日本で初めて1999年10月に品質マネジメントシステムISO9001の認証(審査登録)取得を実現しました。その後も、システムの維持・継続的改善をしながら認証取得事業所の拡大を推進しています。

【■:ISO9001認証(審査登録)取得】